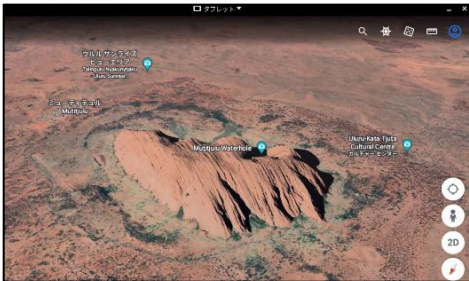


令和5年度 1人1台端末の活用による実践事例

学 校 名		岡山県立井原高等学校	
実践者等		井谷 勇哉	実践日 令和5年7月13日
実践場面 (教科・科目(単元名)、学校行事等)		地歴公民(地理総合) 「ウルル(エアーズロック)から地形を学ぶ」	
対象生徒(学年等)		普通科1年	
育成を目指す資質・能力		☒ 知識・技能(技術) ☐ 思考力・判断力・表現力等 ☒ 学びに向かう力・人間性等	
分類	授 業 中	☒ クラウドやアプリの活用 ☐ デジタルデータの保存 ☐ 思考やデータの可視化	
		☒ データの共有や共同編集 ☒ 対話を充実させる活用 ☒ 思考を促す活用	
		☒ 表現を充実させる活用 ☐ 課題のやり取りと評価の支援 ☒ 効率化や省力化	
		☐ その他()	
	家庭学習	☐ 振り返り ☒ 探究 ☐ 反転学習 ☐ 補習・定着	
実践の内容			
(1) 本時では、ウルルから地形を学ぶことを伝え、教員が「Google Meet」を用いて、生徒の端末に授業スライドを画面共有し、4億年以前の地質時代の特徴とその時代から現代に残る世界遺産であるウルル(エアーズロック)について説明する。 (2) 生徒が自身の端末で「Google Earth」を用いて、実際にウルル(エアーズロック)を細部まで観察し、地形のできた時と現在の状態の違いから標高や地形の特徴などが理解できることを確認する。 (3) 生徒が自身の端末で「Google Earth」を用いて、「5.4億年より前」、「5.4～2.5億年前」、「2.5億年前～現在」のそれぞれの時代にできた地形を観察し、現在の状態から標高や地形の特徴を自分で考えた後、他の生徒と意見を共有する。 (4) 教員がプリントを用いて、今現在、存在している地形には地殻変動が関わっていることをまとめる。 (5) 生徒が自身の端末で「Google Earth」を用いて、本時で学んだ山脈や地形を調べながら、各自で振り返りをする。			
			
<画面共有の様子>		<Google Earthで観察している画面>	
			
		<他の生徒と意見を共有している様子>	
【本時と家庭学習との連動】 (本時前) 前時に学んだプレートテクトニクスを踏まえ、エアーズロックの成り立ちを予想してくる。 (本時後) 実施なし。			